

## 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）会議要録

- 1 日 時 令和6年8月21日（水）18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階第1、第2会議室
- 3 出席委員 阿部、和、熊田、見城、坂井、酒井、鈴木、西田、馬場、福本、町田、  
宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 市川、川鍋（敬称略）
- 5 事務局 福島（常務理事）、田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 2名
- 7 議 事
  - (1) 開 会
  - (2) 委員長挨拶

【委員長】 本日は足元の悪い中、ご出席いただきありがとうございます。本日は、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）のふりかえり報告書に基づき、6年間の取り組みを事務局より報告いたします。その後、グループディスカッションを通じて各委員より計画策定における課題等の意見をいただきます。

### (3) 議 事

#### ①第1回策定委員会 会議要録確認 資料1

【委員長】 お手元の会議要録案を確認いただき、意見や訂正等があれば、修正いたしますが、いかがでしょうか。

※委員からの意見等はなかった。

#### ②第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の振り返りについて資料2

【委員長】 第4次活動計画の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

※資料2に基づき事務局より説明を行った。

【委員長】 事務局より説明がありましたが、何か質問や全体的なことでも、意見がある委員はいますか。

【副委員長】 事務局からの説明を聞いて、第4次活動計画の推進委員会において、学識経験者だけではなく、様々な地域住民が第4次活動計画に対する意見を出し合っていることについて、まず評価をしたいと思います。ただ、説明を聞いて、何を念頭においてグループディスカッションで意見を出せば良いかが分かりま

せんでした。資料が3種類もあり、どの資料を見て説明を聞けば良いかが分かりませんでした。まずは、第4次活動計画の評価の算定方法について事務局より説明をいただきたい。また、委員長より報告書における第4次活動計画の評価における要点および第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）の策定に向けた課題について説明をいただきたい。

【事務局】 算定方法については、**資料2 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画6年間のふりかえり報告書（2019～2024）**の1ページに評価基準を示しています。

具体的には基本目標の取り組みを大項目として大別し、各項目の達成度を×から◎で評価しています。各大項目の評価を平均すると2.56となるため、第4次活動計画の最終評価を△としています。

【副委員長】 よく分かりました。事前に達成状況の評価基準を示してもらい、その上で各大項目の達成度を数値化した根拠として、具体的な取り組みを教えてもらえると良かったです。

【委員長】 先ほど事務局より第4次活動計画の進捗状況について説明がありましたが、内容について補足します。この報告書は各基本目標を大項目に分け、その大項目をさらに細分化して小項目を作っています。小項目についてはステップ1からステップ3に分けて進捗状況を記載し、3つのステップで取り組んだことを具体的な取組内容として記載しています。最終的に具体的な取組内容を踏まえ、推進委員からのメッセージとして今後の計画に向けてのアドバイスをいただいています。推進委員からのメッセージを基に、大項目の達成度を数値化して、全ての大項目の達成度の平均値を第4次活動計画の最終評価としました。では、事務局より、小項目の3つのステップで取り組んだことについて、具体的に説明してください。

※**資料2**に基づき事務局より小項目における3つのステップで取り組んだことについて説明を行った。

【委員長】 基本目標について事務局より説明をいただきました。この説明を受け、各グループ内で計画策定における課題等の意見を出していただくようお願いします。（グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は**別紙 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）グループワーク報告**を参照。）

【委員長】 ありがとうございます。AからDの各グループでの内容を発表いただきました。発表の内容について、まとめさせていただきます。発表では、大きく分けて2種類の話があり、1つ目は第5次活動計画を策定するにあたり、課題や新しいテーマとして検討すべき内容、2つ目は計画の評価に関する話がありました。まず、1つ目に係わる内容では、課題や新しいテーマについて特に気になった話として、まずコロナ禍を経てSNS等を用いた広報の仕方が広がりつつある中、第5次活動計画ではどのような広報に取り組んでいくのかという話、2つ目は赤十字奉仕団など古くから市民の実践が進んでいる武蔵野市において、昔から実践している活動をどのように次の世代へ継承していくかという話、3つ目は多様な相談先がある中、「相談」の在り方についてどう整理していくか、また外国籍やLGBTQの方等、生きづらさを感じている人の相談対応について検討すべきとの話がありました。続いて2つ目に係わる内容では計画の評価に関する話として、1つ目にコロナ禍を経験したことで当初計画した内容を評価することが難しかったことから、そのような事象が起きた場合に計画をどう評価するのかという話、2つ目に地域社協という住民主体の組織がある中で、市民社協がどのような役割を果たすべきかを考える必要があるという話がありました。いずれにしても地域や人のつながりが変化していく中で、それに対応した計画の策定が必要であると改めて感じました。今回のグループディスカッションでの報告内容を踏まえ、どのように第5次活動計画へ反映していくのかを次回の策定委員会にて議論出来ればと思います。

#### (4) その他

- ・策定委員会議事要録校正の送付について

事務局より今回および次回以降の策定委員会の議事要録について、議事要録作成の都合上、校正依頼を各委員のメールへ送付する旨を伝えた。

※委員からの意見等はなかった。

#### (5) 次回日程

- ・9月11日（水）18時30分より 武蔵野商工会議所 5階 第1、第2会議室

【委員長】 他になければ、これで第2回の策定委員会を終わります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

グループA			
熊田 博喜	阿部 春彦	見城 学	福本 千晴
（職員）岡田、河合			
<p><b>【前回計画の評価について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価点4が少ない。もっと評価が高くて良かったのではないか。第4次を策定した時のアイデアで生かせるものもあるのでは。</li> <li>⇒コロナ禍で評価が適切にできなかった。しかしコロナで出来なかったことで評価をしないわけにもいかないため、苦肉の策での評価となった。結果、委員からのアドバイスの形となった。</li> <li>・感染症のようなことが起こることも想定した形で計画を策定する必要もあるのではないか。</li> <li>・振り返り報告書は、全体的に現状がまとめられているという感想をもった。</li> </ul> <p><b>【活動におけるデジタルとアナログの活用について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身もコロナで居場所活動ができなかった。止まってしまった。そのような状況の中でどうしたか、という計画にした方がよい。</li> <li>・想定できないことも多々ある。</li> <li>・今回の計画ではSNS等のネットを活用した取り組みが進んだ印象がある。それらを大事にしながら、次の計画も策定していく必要がある。</li> <li>・オンラインが不得意な人もいる。そのような人をどのようにカバーできるか。使いたくない人も無理矢理に使わせることになるのも良くない。</li> <li>・アフターコロナでの重要な課題だと思う。</li> <li>・オンラインが苦手という人もこれまでの関わりの中でいた。得意な人と不得意な人が並行して活動できることが大切だと思う。</li> <li>・オンラインが苦手な人に情報をどう届けるか。</li> <li>・紙媒体はコミセンや関係機関に置かれている。新しい人のための重要な情報源だが、その人自身が取りに行かないと情報が届かない。</li> <li>・市報は全戸配布により自動で入ってくるイメージ。印象に残りやすい。そのような人がどのようにしてつながるか。</li> <li>・学生が主体となり、学園祭でチャリティバザーを通じて市民との交流を行った。最初はSNSだった。若い人の反応は多かったが、年配の人の反応は薄かった。様々な媒体を通じた周知が必要だと思う。</li> <li>・アナログとデジタルをどのようにして活用するか。情報によって使い分ける必要もある。十分な整理はできていないが（社協に限らず）。</li> <li>・ネットが弱い場合にどのようにして情報を届けるか。</li> <li>・（1-3）の評価は×になっているが、それぞれの地域でやれない理由を書い</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

ておくのか。その時にやれるやれないの評価を行っていく方が良いのか。

- ・地域社協の評価は、策定委員会の中では触れられていない。今後の委員会の中で触れていくことになると思う。
- ・地域社協の取り組み集のような資料で、うまく取り組んでもらうきっかけ作りができるような資料があっても良いと思う。
- ・地域社協の活動に対する評価については、委員の総意も必要。

【地域社協について】

- ・それぞれの専門性も必要。障がいの知識等、様々な知識が必要。専門化かつ包括化が進んでいるので、媒体の整理が必要だがとても難しい。
- ・境南地域社協ではオンラインで会議を行っているが、なければ心許ない。依存しすぎるのも問題。
- ・PTA会長に誘われ、地域社協に参加した。無邪気に人を巻き込む能力を持つ人も大事。
- ・そのような人の元に様々な能力をもつ人が集まるイメージがある（ハブになる人。巻き込める人）。そのようなことができる住民が地域にいと、全員が知識を高めなくても、うまく対象につなぐことができるのではないか。
- ・ハブになる人や巻き込める人を、以前の計画では「スーパー市民」という言葉で語られたこともあった。世代を超えて、そのような人が必要なのかという視点。養成は難しい。
- ・自分の地域にも思い浮かぶ人がいる。その人がいなかったら同じ活動ができるか心配という声もある。
- ・地域社協の今後として、次世代をどう開拓していくかが課題。
- ・学生の意見としては、転居してきた人にボランティアに参加してもらうための案内が無いので、何か案内があった方が良いと思う。  
⇒転居してきた時点で地域社協の案内をする方が良いのでは。一部の地域社協にて「転居向けセット」に案内文書載せているが、効果はあったか知りたい。
- ・「紙の情報が欲しい」という人はポストに書いて欲しい。
- ・マンションでチラシが捨てられないための工夫も必要ではないか。
- ・市立の学校に子どもが通っていると地域のお知らせが配布されたり、PTAや青少年協や地域福祉などの係につながる「階段」のようなものがあるが、私立の学校の場合はそれが無いと思われる。私立にお子さん通われている方にも、同じように地域のお知らせが入ったりして、参加につながる「階段」のようなものがあるといいのでは。
- ・子どもは小さい頃に地域で育てるという意識。地域で育つと大人になったときに地域に帰ってくるという著述もある。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

- ・私立学校に通っている子どもをどう地域に結びつけるかが大切。
- ・私立の学校もそうだが、障がいの分野で発言をさせていただくと、特別支援学校は都立になるので同じように地域の情報が入りにくい、防災や災害時の時のことも、地域でどうなっているか分かりにくいという意見を聞いている。
- ・「スーパー市民」につながると良いかもしれない。専門職に相談するのは敷居が高い。
- ・今活動している人と話すと、誰かの知り合いであれば良いが、新しい人に入ってもらうのにもハードルがあるように感じる。
- ・担い手がないという話はこれまでの計画でも出ていたが、その話すら出なくなったときは、本当に地域活動の継続が難しい時だと思う。

【武蔵野市の風土について】

- ・武蔵野市はつながりが少ないことが良いという意見も。
- ・全くつながりが必要ないのか。特定なテーマでは必要な人もいるのかもしれない。特定な情報を仕入れたい市民もいるのではないか。
- ・表向きは町会がないということが影響している可能性もある。
- ・全くつながりが必要ない人はいるのか。
- ・社協ではそのような人もいるという認識。ただし、そのような人にも情報発信を継続している。困ったときに助けを求める人もいるという印象。
- ・そのような人に対して地域の人がどのような印象を持つか。ケースにもよると思う。
- ・誰でも参加できるというドアは開けておくスタンス。排除はできない。楽しそうにみえれば、自分から参加する人もいるのではないか。（北風と太陽のような）
- ・「太陽のような地域づくり」が大切ではないか。

【ボランティア活動について】

- ・高校時代に活動に興味はあったが、サークルなどがなかったため参加のきっかけがなかった。大学に入ったらサークル等があったため、参加してみた。周りも大学から始めたという人が多い。

【計画策定について】

- ・第4次の地域懇談会にも参加した。計画ができたことは知らせてもらったが、その経過が分からなかった。
- ・地域別の活動計画の作成が大変・・・という意見もよく聞いている。（計画があれば、やれたことが共有できるという良い面もある）

グループB

酒井 陽子	鈴木 庸子	西田 順子	山田 剛
-------	-------	-------	------

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

（職員）横山、後藤

【情報の発信について】

- ・基本目標の（１）～（３）の評価が低いことが気になった。様々な広報手段に取り組んでいると感じたが、運用する人や受け手の反応など、人の面で課題があったか。

【地域活動のPRについて】

- ・日赤奉仕団も担い手が減ってきている。日赤奉仕団など市内でも歴史のある団体でもどのような活動をしているのか知らないという人もいる。活動を知っている人にとっては当たり前でも、知らない人がいることを認識し、わかりやすいPRを考えたい。
- ・地域活動団体でお揃いのTシャツを作るなど、PR活動をするための予算を市民社協で助成するなどのしくみがあると良い。

【活動の担い手について】

- ・第4次活動計画で、年齢の区切りより、シニア世代であっても新しい人の参加を考えたいという話が展開されたことは良かったと思う。
- ・アプローチ対象として、まだ団体に所属していない人を挙げているが、すでに他団体に所属している人の方が活動への理解も促しやすいため、団体同士の人材交流についても検討してはどうか。
- ・働きながらの参加について、新しく委嘱した民生委員で、フルタイムで働く方をお願いした。やりたいという気持ちがあれば参加できるしくみが必要。
- ・顔の見える関係だけでなく、「腹の中まで見える関係性」のような信頼し合える関係づくりもしていきたい。
- ・若い人の参加動機で「自分が楽しめることがポイントになる」というメッセージがあったが、シニア世代にも通じるので、大切な視点だと思う。

【市民社協の相談機能について】

- ・日赤奉仕団の友愛訪問で気になった人をつないでよいか悩んでいた。
- ・ちょこっと出先で生活相談について、市内にある他の相談機能との住み分けをしてほしい。
- ・地域包括支援センターなど各専門領域で相談支援を行っている機関との連携や、個人情報の取扱いなどに注意して情報交換などにも取り組んでほしい。

【ご近所のつどい・居場所づくりについて】

- ・広げたいという意向があると思うが、まだ行き場がない人や手伝いたい人に届いていないと思う。もっとPRが必要。
- ・活動場所までの交通手段がなかったり、予約が必要な場所でなかなか予約が出来なかったりと、小学校区の範囲でも行きづらい人がまだいるように思う。

【外国籍の方への支援について】

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 策定委員会に外国籍の方が参加するなど、当事者の声が必要だと思う。</li> <li>・ まずはニーズ調査をするなど、課題把握や計画に参加できるしくみが必要。</li> <li>・ 外国籍の方も地域活動をしている人と繋がっていないとなかなか参加しづらいと思う。</li> </ul>			
グループC			
坂井 健司	馬場 武寛	宮田 恵	
（職員）林、中村			
<p>【第5次の構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4次がきめ細かい構成となっているので、大きく変更する必要はないのではないか。コロナ禍でうまく活動できなかったこともふまえて深化するイメージで作っていただければ・・・。</li> <li>・ 具体的な数字などで表記し、評価軸を明確にする。</li> <li>・ (P.10)「居場所の数を増やしていきましょう」では評価が高いのに対し、「居場所の運営する担い手を増やしましょう」では評価が低いのは何か理由があるのか。</li> </ul> <p>【地域社協について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域によって福祉活動ができているところとできていないところでバラつきがある。その地域格差をなくすような動きも大切ではないか。</li> <li>・ SNSなどで市民に良く見られている内容の事例があれば、他の地域社協と情報共有をしてはどうか。</li> </ul> <p>【企業に対しての働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉教育やこころのバリアフリー講座をきっかけにしてはどうか。</li> </ul>			
グループD			
和 秀俊	町田 敏	吉田 真也	
（職員）木原、佐々木			
<p>【計画の評価方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉の計画における評価基準の設定が難しいのはかねてから言われてきているが、無理に点数で評価しなくても良いのではないか。全体的に見るとできていることが点数制にしたために評価が下がるのはもったいない。</li> <li>・ 取り組んだことやできていることをもっと前面に出して評価できるようなふりかえり方（プロセス評価）ができると良い。</li> <li>・ 参加型評価の場を設けても良い。</li> </ul> <p>【情報発信について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル化の時代ではあるが、いわゆるデジタル弱者を置いていかないよう</li> </ul>			



第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）  
グループワーク報告

に、どう拾い上げていくかは忘れないようにしないといけない。

- ・若者（学生）をうまく巻き込めると良い。学生へのアウトリーチは必要。

【これからのコミュニティについて】

- ・コロナを経てコミュニケーションの仕方が変わった。これからの時代に合わせたコミュニケーション方法を考えていかないといけない。
- ・コロナで失ったもののできるようになったことの整理が必要。
- ・地域社協とコミセンが分かれてそれぞれ活動しているのは武蔵野市の特長だが、コミュニティという枠の中では一緒なので、連携含めこれからのあり方を考えていく必要がある。